

花と歴史、人が彩るまち

形埜学区

KATANO



形埜の自然と文化を守ろう

私たちは「人・もの・こと」をテーマに、体験しながらふるさとを学ぶ「木の芽学習」を行っています。地域の達人やその道のプロを迎え、目の前にある自然から多くのことを学んでいます。

木の芽学習一覧

- 1 年生 / カブトムシ博士から学ぶカブトムシの飼育観察活動
- 2 年生 / 野菜作り名人の祖父母から学ぶ野菜作り体験と本物の子牛の飼育体験
- 3 年生 / かたのササユリの里育成会の方々と学ぶササユリの調査観察体験・保護活動
- 4 年生 / 川の探検と川魚の飼育観察を通して、乙川の水質を守る活動
- 5 年生 / ふるさと森とふれ合い、森に学ぶ（森の健康診断と木の駅プロジェクトによる間伐体験）
- 6 年生 / ふるさと形埜の水質を守る（乙川の水質調査活動・炭焼き体験活動）



これからも続けてほしい活動

●乙川の水質調査活動（平成5年度開始）

乙川の透視度、導電率、COD（※）を定期的に測定し、結果を記録・掲示する活動。

活動して良かった！ 「わたしは、初め、ただ伝統だからという理由で水質調査活動をしていました。でも、活動をしていく中で、水質調査を続けることによって川の環境を守っていくことができると思うようになりました。いつまでもきれいな乙川であり続けてほしいと思います」（6年生/平成27年度・女子）
※CODとは、化学的酸素要求量のこと。酸素消費量とも呼ばれる代表的な水質の指標のひとつ。

●ササユリの保護活動（平成12年度開始）

ササユリの数の調査、種まきや球根の植え替え、土作りなどを行う調査観察・保護育成活動。

活動して良かった！ 「ササユリ遠足や先進地への見学に行きました。種まきや球根を植え替えたり、そのための土を作ったり、ササユリハウスを整備して看板を作ったりしました。学校のササユリの花が増えるように、トレーニングセンターの南側の斜面に球根を植えました。6月に何本の花が咲くか、すごく楽しみです」（3年生/平成27年度・男子）



清流、乙川には
魚がたくさんいるよ



編集後記

ササユリの種は
とっても薄いんだよ



美しい花の咲く自然や奥深い歴史など、誌面を作成するうえで形埜学区の素晴らしさを改めて感じることができました。委員会のメンバーは、年代、性別、職業もさまざま、地域への思い、感じ方、知識もさまざまでした。“私は知っていても隣の人知らなかった”とか、“勘違いして憶えていた”などの話で盛り上がりながら、自分たちの暮らす地域について見つめ直す機会となりました。この冊子を手にした時、それがふるさとを語るきっかけとなれば…、そして形埜の子どもたちには、ふるさとを愛し続けてほしいと願ってやみません。

〔作成委員会〕 吉口雅之/山内隆一/荻野保夫/小畑孝一/倉橋秀夫/北村文啓/杉山文子/與田智昭/天野秀子/山内和代/吉口照波/中澤昇/小畑勝彦/鈴木喜生/山内典之

〔参考資料〕 額田町史/心のふるさと形埜小学校/額田の風土記/ふるさと読本ぬかた/写真が語るあの時、この時
〔表紙写真〕 6月の風に吹かれ、気高く優雅に咲くササユリ



7 140周年記念の航空写真。現在、全校児童53人の形埜小学校
6 園児や児童、地域の人が集って祝った乙川バスの開通式典
5 全長25mの町民プールは、額田町民なら誰でも無料で利用できた
4 泳ぎの練習は乙川からプールへ(写真中央が前畑さん)
3 荷車でさえ通れないほどのけもの道を開削して造られた根裏隧道
2 昭和34年の340人をピークに、多くの児童が学んだ額田町立形埜小学校
1 形埜村の愛育活動はテレビ、明治後期から大正にかけてテニスの強豪校だったという形埜尋常高等小学校雑誌でも全国で紹介された

形埜学区のなりたち

一八七三年 ■ 明治 6
桜形、小久田、井沢、毛呂村合同で桜形村の広祥院を仮校舎とし、形埜小学校の前身となる桜形学校を開校

桜形交番所設置

明治25年からは巡査が駐在するようになりました

一八八九年 ■ 明治 22
切山、小久田、毛呂、桜形、鍛埜、南大須、大高味、井沢の8村が合併して、額田郡形埜村と称し、役場を鍛埜に置く
麻生(桜形字向11番地)に役場新庁舎竣工

一八九六年 ■ 明治 29
市町村制公布により合併が推進され、額田地域に形埜、下山、宮崎、豊富の4か村が誕生

一九〇六年 ■ 明治 39
母子保健所設立。翌年、医療事業を開始

一九三五年 ■ 昭和 10
医療機関として形埜村隣保館ができ、母子保健に取り組んでいたことから愛育村に指定される。映画「村の保健婦」撮影：1

一九四〇年 ■ 昭和 15
形埜尋常高等小学校が形埜国民学校に改称

一九四一年 ■ 昭和 16
形埜村営の診療所を開設して嘱託医を置く

一九四六年 ■ 昭和 21
形埜村立形埜小学校に改称

一九四七年 ■ 昭和 22
名之内(桜形字日面3番地)に役場新庁舎竣工

一九四八年 ■ 昭和 23
形埜中学校竣工

一九五〇年 ■ 昭和 25
形埜村閉村、額田町誕生。額田町立形埜小学校に改称：2

一九五六年 ■ 昭和 31
形埜有線放送開始

一九五九年 ■ 昭和 34
根裏隧道(トンネル)開通：3

一九六二年 ■ 昭和 37
形埜へき地保育園開所

形埜小学校がフラワー・ブラボー・コンクール(FBC)に参加開始

形埜小学校プール竣工：4

ベルリンオリンピック金メダリストの兵藤秀子(旧姓・前畑)氏を招聘して行われました

形埜中学校が閉校となり、町内4中学を統合して額田中学校(檜山町)が発足

桜形簡易水道完成

桜形に額田町基幹集落センター竣工

額田北部トレーニングセンターを形埜小学校敷地内に竣工

形埜地区コミュニティ推進地区に指定され、花壇を各地に設置

町民プール完工：5

形埜小学校新校舎竣工

日近の里で「こいのぼりイベント」が始まる

乙川の水質調査開始

日近太鼓の活動開始。「太鼓フェスティバル」を開催

「かたのササユリの里育成会」発足

額田町が岡崎市と合併。岡崎市立形埜小学校に改称

乙川バス(コミュニティバス)運行開始：6

形埜小学校創立140周年：7

額田消防団第9部(桜形町)が第61回愛知県消防操法大会ポンプ車操法の部で優勝し、全国大会で優良賞(第6位)を受賞

DATA



□人	1,346人
□男性	660人
□女性	686人
□世帯数	451世帯
□面積	36.67km ²
[2016年7月1日現在]	

日近城址

日近城は、山家三方衆(作手奥平氏、田峯菅沼氏、長篠菅沼氏)といわれた名将と、奥平3代貞昌が築城したと伝えられています。城跡には土塁、曲輪、堀切など、歴史を物語る遺産も数多く残されています。奥平貞直の代には、後の徳川家康の軍勢と一戦を交え、苦戦ながらも勝利を収めたところと伝えられ、この戦いが「日近合戦」といわれています。

広祥院

奥平3代貞昌が作手川尻から日近城に移り、加茂郡梁山・妙昌寺僧、華岳融和尚(曹洞宗)に皈依し、深恩院旧跡に伽藍を築き開基。「深恩山、広祥院」と改め奥平家の菩提寺としました。開基仏である延命地藏菩薩(市指定文化財)の像は、現在の本尊の胎内仏として収められています。境内には奥平一族の代々の墓、日近城址の麓には武田の人質となり生殺されたおふう(お安)、仙丸、悲報を伝えた乳母の墓があります。



広祥院

奥平家悲話

武田勢が三河に進出した際、奥平家に人質を要求。日近家からおふう(13歳)、本家から4代の次男仙丸(10歳)を質子としました。奥平家の家康への離反がわかると質子を生殺、晒し首に。乳母がその実情を日近家に報告し、日近家は晒し首奪還に及びました。武田家も奮還すべく追手を出しましたが夏山奥平氏に阻まれ、山中にて討ち取られました。このとき追手を葬った場所に、自然石を並べて七人塚と呼び、今に伝えられています。



おふうの墓



大川神明宮/神楽殿(回り舞台)

江戸時代後期から使用された舞台。現存するものは1882年(明治15)の建築であり、県指定有形民俗文化財である



細野霊水

昔からある湧水。やわらかな口当たりが評判で、遠方からも水汲みに訪れる



切山の大スギ(県天然記念物)

推定樹齢約1000年、アシウスギの仲間とされる。垂れ下がった一枝が地中に入って成長している



ココが見どころ
繋がっている2本の木

昔、白髪の老翁が地面に杉の杖を逆さに挿して立ち去り、その杖が成長したという伝説が残る

市の北東に位置し、北側を豊田市、東側を新城市と接する市境の形埜学区。豊かな緑の中に咲く季節の花々はもちろん、地域住民が力を合わせて守るササユリや花壇などが見られる花めぐりを楽しんでみませんか？

花めぐりマップ



野に咲く季節の花々

田んぼの畔に咲く素朴な花から、山の斜面に咲く希少な花まで、四季折々の花々がのどかな風景を彩ってくれます。



ロウバイ



ヒガンバナ(赤)



ヒガンバナ(白)



ノカンゾウ



ナツエビネ



キキョウ



ヤマボウシ



カタクリ



ネジバナ



シャガ



ハルリンドウ

花壇名

花壇(11か所)

ササユリ群生地
(下記14か所)

①赤田和	22本
②切山	379本
③毛呂	47本
④南大須神原	220本
⑤南大須	1656本
⑥南大須屋ヶ入、雉子沢	36本
⑦大山	130本
⑧法味	50本
⑨大高味	131本
⑩薬師	41本
⑪須賀淵	10本
⑫神谷倉	130本
⑬専念寺裏	60本
▲形埜小学校	73本

平成28年度合計 2985本

特集 1

日近の里



古くは日近郷として栄え、700年以上の歴史を誇る形埜地区。

時代が変わった今、奥平家3代奥平貞昌が築いた日近城址、奥平家菩提寺である広祥院、自然景観の美しいかおれ溪谷など周辺一帯を「日近の里」と名付け、地域の憩いの場として活用しています。日近の里は、日近郷にまつわる歴史スポット、かおれ街道の四季が楽しめる自然スポット、イベントを開催する交流スポットであり、地域の魅力が詰まった場所です。平成に入って野外ステージ、遊歩道、駐車場なども整備され、さらに利用しやすくなりました。週

秋のかおれ溪谷▷

日近の里の歴史

- ◎1296年(永仁4)
日近郷が古文書に登場
※文書記載の最古とされる。
- ◎1339年(暦応2)
広祥院建立
- ◎1478年(文明10)
奥平貞昌が日近城を築く
- ◎1556年(弘治2)
日近合戦勃発
- ◎1590年(天正18)
日近城廃絶
…
- ◎1992年(平成4)
第1回こいのぼりイベント開催
- ◎1994年(平成6)
日近太鼓の初披露

末にバーベキューを楽しむ人の姿も見られるなど、日常から行楽シーズまで、多くのみなさんに親しまれています。

注目!! 日近の里を盛り上げる2大イベント



こいのぼりイベント
鯉のぼりを活用した地域おこし。毎年4月第3日曜日から5月第2日曜日の約3週間、人々の目を楽しませてくれています。森の緑と空の青をバックに、約120匹の色とりどりの鯉が泳ぐ姿は壮観の一言。初日には猪汁の振る舞いや日近太鼓の演奏も行われます。

●こいのぼりイベントとは…
日近の里を守る会によって企画運営。四季を楽しめる環境の整備などの自然を守る活動を行っており、日近の里の自然をPRする行事のひとつとなっています。



日近の里 太鼓フェスティバル
毎年8月第4土曜日に開催される和太鼓のコンサート。地元の日近太鼓を中心に、市内外の太鼓チームが演奏を披露します。日近合戦を題材にした太鼓など、各チームの特徴あるパフォーマンスと大自然に鳴り響く太鼓の音が来場者の心を捉えています。

●日近太鼓とは…
平成6年に地域の有志により日近太鼓研究会として誕生した和太鼓グループ。市内外のイベントにも積極的に参加し、地域を盛り上げる活動を行っています。

特集 2

花が彩る故郷



▷時期になると、多くの見物客でにぎわう

▽薄いピンク色がかった花が咲く



地域で守るササユリ群生地、地域で作り上げる花壇のほか、専念寺やかおれ溪谷の桜、自生するシュラン、スイセン、リンドウ、カタクリなど、さまざまな花が見られる形埜。ササユリは長年保護活動を続けており、群生地が14か所もあります。毎年6月上旬から中旬が見頃で、時期になると多くの写真愛好家が訪れるほど、形埜のササユリは有名です。また地域花壇は11か所あり、8月中旬から10月頃まで人々の目を楽しませてくれます。花壇は赤、白、青の3色のサルビア、黄色のマリーゴールド、紫色のアゲラタムなどの花々が、色合いや立体感を考慮して作り込まれています。これらはFBC花壇コンクールで入賞するほどの力作ぞろいで、見応えも十分です。



毛呂地区の花壇



専念寺の桜

COLUMN

地域の拠点に、そして活力に！ 形埜小学校

形埜学区では、地域の自然を守ること、地域の文化を次世代へ引き継ぐこと、そして地域で子どもを育てることを大切にしています。そこでササユリ保護活動やいきいきふれあいの日など、さまざまな地域連携の活動が生まれました。この拠点の役割となるのが小学校であり、担い手となってくれるのが小学生なのです。これらの活動によって地域の子(孫)世代、親世代、祖父母世代の交流が盛んになり、世代を超えて顔見知りになることによって地域の結束を高めています。



△形埜小学校

▷世代を越えた交流ができる「いきいきふれあいの日」(写真はランドゴルフ)

